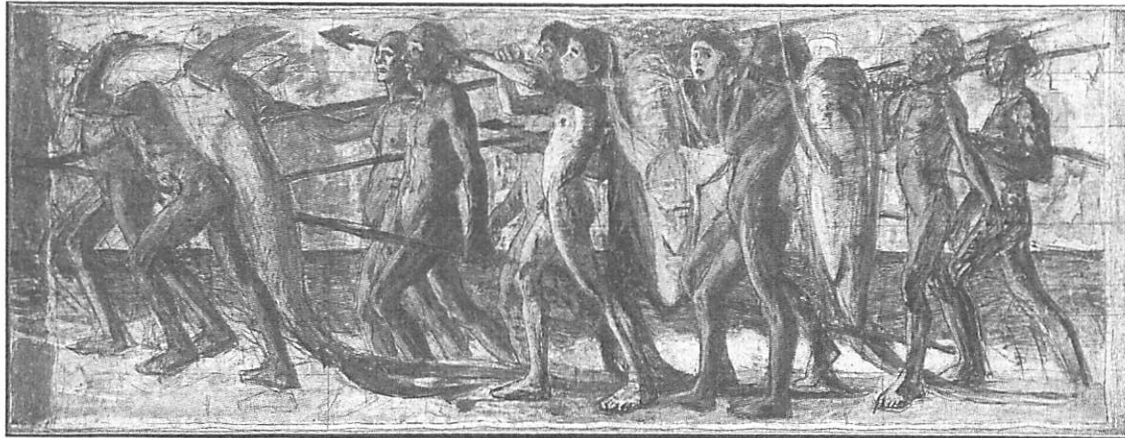


海の幸と日露戦争の時代

安房歴史文化研究会 25日に館山で公開講座

安房歴史文化研究会の公開講座が、25日午後2時から、館山市コミュニティセンター2階集団『海の幸』は、1904年(明治37)夏、小谷家指導室で開かれる。N年(明治37)夏、小谷家P.O.法人安房文化遺産に滞在した青木繁によつて描かれた。早世の画家フォーラムの愛沢伸雄代表が「青木繁『海の幸』誕生と日露戦争の時代」のテーマで語る。資料代として200円。



海の幸 (石橋財団 プリヂェストン美術館蔵)

日本を代表する洋画

この小谷家住宅の修復

が、関係者や全国からの支援で進められ、青木繁「海の幸」記念館として開館。その経緯の中で、小谷家からは明治期の水産業など人々の動きを知ることが出来る貴重な資料が発見された。愛沢代表は、発見された資料から、青木繁が訪れた布良の地や小谷家に関わる人々の姿、特に海軍望楼という軍事施設や帝国水難救済会布良救難所が設置され、軍事演習の地であった景勝地・布良の姿、日露戦争の真つただ中での漁民たちと若き画家たちとの交流や、

布良沖のウラジオストク艦隊の動きによる危機的状況などに触れるという。なぜ40余日も小谷家に逗留(とまりゆ)し、絵画制作ができたのか。海の幸誕生を地域史の視点から考察するという。問い合わせは、事務局の石崎和夫さん(0470-23-6677)へ。